



さらなる飛躍へ

# 2018年3月期 通期決算説明会

2018年5月16日



大陽日酸  
The Gas Professionals

## 目次

---

- **2018年3月期 通期業績**
  - 通期業績概要
  - セグメント別業績
- **2019年3月期 通期業績予想概要**
  - 通期業績予想
  - 国内ガス事業
  - 米国ガス事業
  - アジア・オセアニアガス事業
  - サーモス事業
  - Ortus Stage 2 進捗状況
- **株主還元**

# 2018年3月期 通期業績



Ortus Stage 2

# 業績概要

(単位：億円)

	17/3月期 通期実績(IFRS) 利益率	18/3月期 通期実績(IFRS) 利益率	前期比	18/3月期 通期公表値(IFRS) 利益率
<b>売上収益</b>	<b>5,815</b>	<b>6,462</b>	<b>+647</b> 11.1%	<b>6,350</b>
<b>コア営業利益</b>	<b>547</b> 9.4%	<b>600</b> 9.3%	<b>+53</b> +9.7%	<b>600</b> 9.4%
非経常損益	-10	-1	9	0
<b>営業利益</b>	<b>536</b> 9.2%	<b>598</b> 9.3%	<b>+62</b> +11.5%	<b>600</b> 9.4%
<b>親会社の所有者に 帰属する当期利益</b>	<b>347</b> 6.0%	<b>489</b> 7.6%	<b>+142</b> +40.8%	<b>480</b> 7.6%
法人所得税増減額 (特殊要因)	-11 (米国繰延税金 負債取崩し)	-122 (米国法人税減税)	-111	
<b>親会社の所有者に 帰属する当期利益</b> (除く法人所得税増減影響)	<b>336</b> 5.8%	<b>367</b> 5.7%	<b>+31</b> +9.2%	

● 為替換算の影響 (USD→円) : 前期通期レート 108.72円 当期通期レート 110.70円  
→影響額 売上収益 + 68億円、コア営業利益 + 6億円

# セグメント別業績

(単位：億円)

		17/3月期 通期実績 (IFRS)	18/3月期 通期実績 (IFRS)	前年 同期比	要因
国内ガス	売上収益	3,214	3,424	+210 +6.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ JFEサンソセンター倉敷工場の稼働開始</li> <li>➢ エレクトロニクス関連：電子材料ガスの販売が好調</li> <li>➢ LPガス：輸入価格上昇の影響で販売価格が上昇</li> </ul>
	セグメント利益	294	307	+13 +4.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 原油価格上昇によるコスト増加</li> <li>➢ エレクトロニクス関連：電子材料ガスの販売が好調</li> </ul>
米国ガス	売上収益	1,472	1,726	+254 +17.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ Air Liquideから買収した事業による寄与 +138億円</li> <li>➢ バルク、パッケージガス、ハードグッズ等で増収</li> <li>➢ 為替換算の影響 +27億円</li> </ul>
	セグメント利益	120	135	+15 +12.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ Air Liquideから買収した事業が増益に貢献</li> <li>➢ バルク・パッケージガス・ハードグッズ等の増収による増益</li> <li>➢ 為替換算の影響 +2億円</li> </ul>
アジア・ オセアニアガス	売上収益	858	1,031	+173 +20.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ Supagas社（豪州）の連結効果 +91億円</li> <li>➢ 中国・台湾・韓国で電子材料ガスの販売が好調</li> <li>➢ 為替換算の影響 +38億円</li> </ul>
	セグメント利益	51	92	+41 +78.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ Supagas社の連結効果 +16億円</li> <li>➢ 中国・台湾・韓国での電子材料ガスの増収による増益</li> <li>➢ 為替換算の影響 +3億円</li> </ul>
サーモス他	売上収益	270	279	+9 +3.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 国内：ケータイマグを中心に販売は堅調に推移</li> <li>➢ 海外：韓国では販売チャネル拡大により増収</li> <li>➢ 為替換算の影響 +3億円</li> </ul>
	セグメント利益	100	83	-17 -16.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 国内：経費（主に広告宣伝費）増加による減益</li> <li>➢ 海外：持分法適用のグループ会社の業績は低調</li> <li>➢ 為替換算の影響 +1億円</li> </ul>

※ セグメント利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出した「コア営業利益」で表示しております。

# 2019年3月期 通期業績予想

## 概要



# 通期業績予想

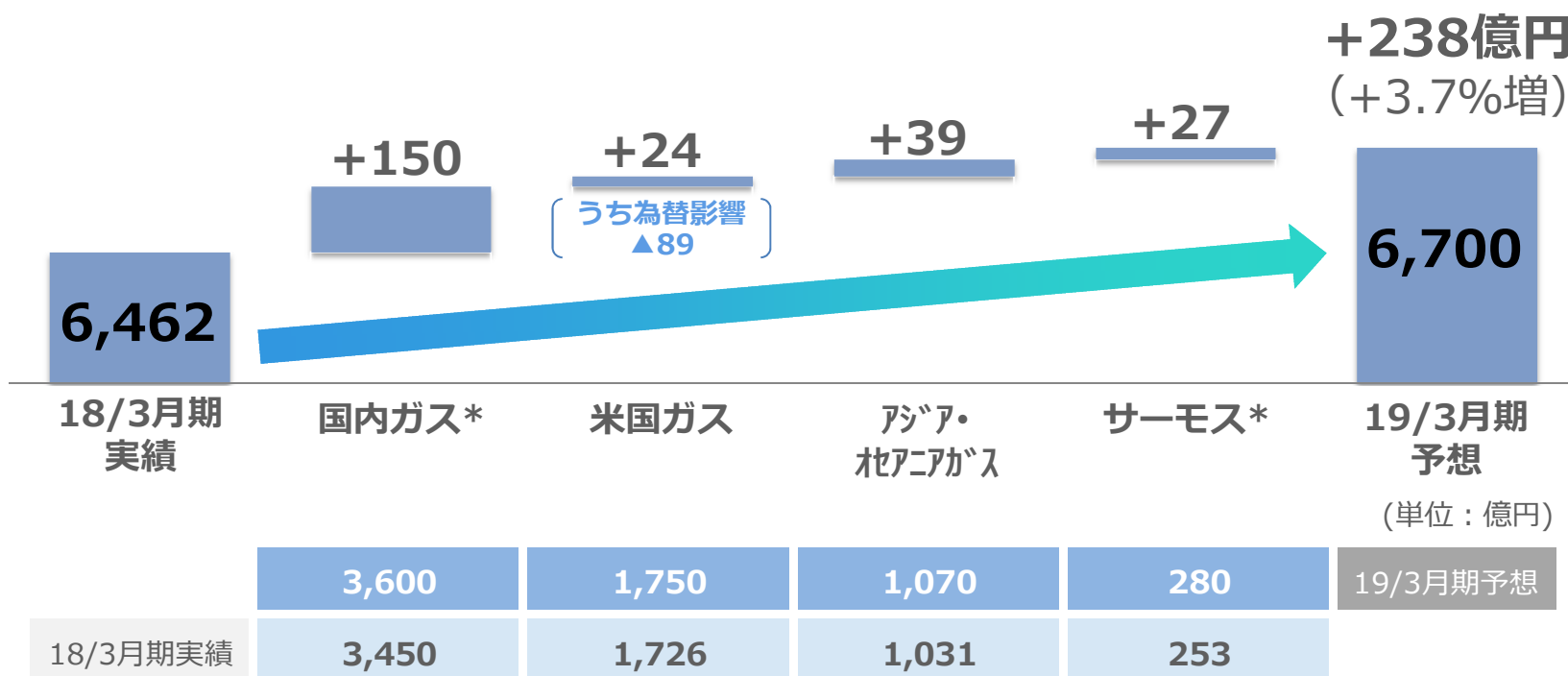
(単位：億円)

	18/3月期 通期実績(IFRS) 利益率	19/3月期 通期予想(IFRS) 利益率	前期比
売上収益	6,462	6,700	+238 +3.7%
コア営業利益	600 9.3%	640 9.6%	+40 +6.6%
非経常損益	-1	5	6
営業利益	598 9.3%	645 9.6%	+47 +7.7%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	489 7.6%	400 6.0%	-89 -18.2%
法人所得税増減額 (特殊要因)	-122 (米国法人税減税)	0 (予定されておりません)	+122
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (除く法人所得税増減影響)	367 5.7%	400 6.0%	+33 +8.9%

● 想定為替レート (USD→円) : 105円 ※2018年3月期 通期レート 110.70円

## 通期業績予想：売上収益増減要因

- 成長シナリオ  
国内No. 1 の地位をより強固なものとし、北米・アジア等、海外成長市場での更なる事業拡大・事業密度の向上を図る。



Ortus Stage 2 数値目標 8,000億円達成に向けて  
確実な業績向上を目指す

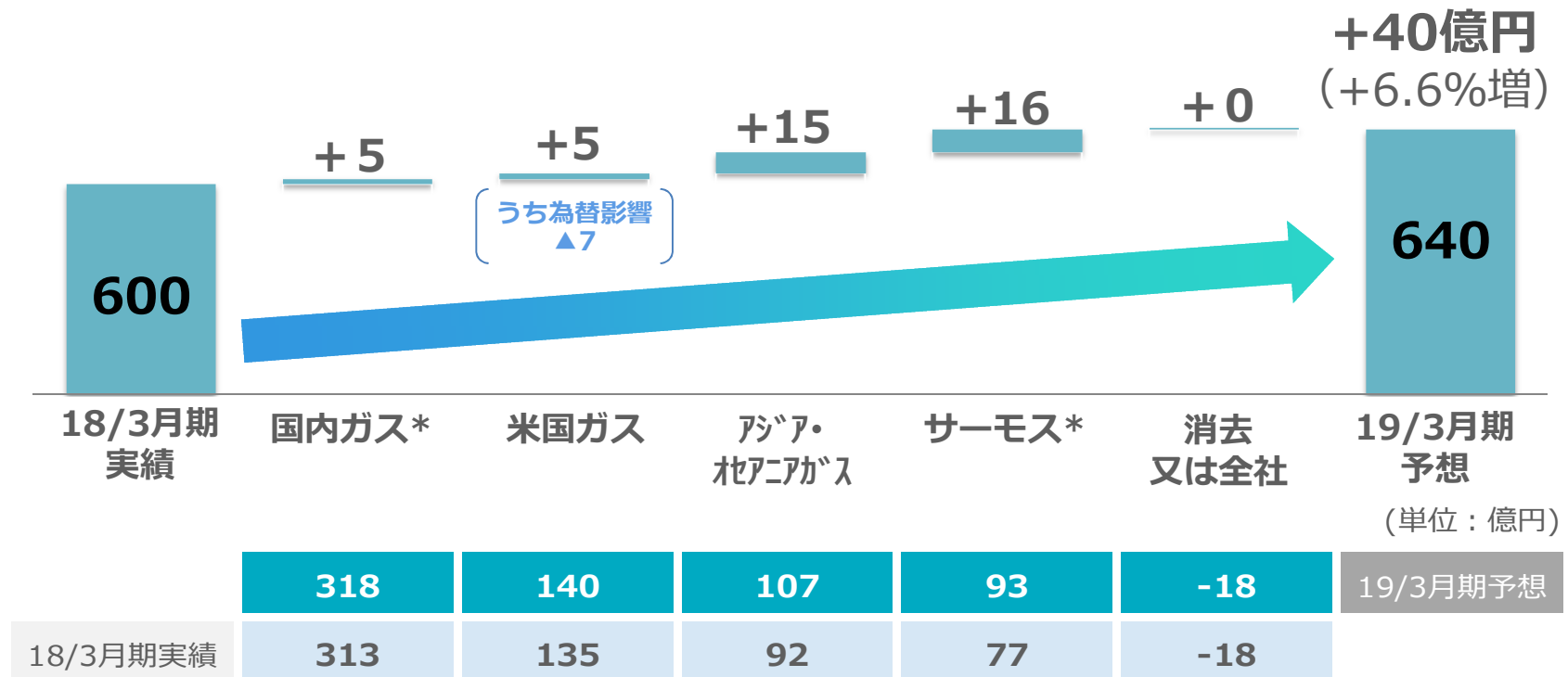
\*2019年3月期より「サーモス他事業」セグメントに計上されていたサーモス事業以外の他事業を「国内ガス事業」セグメントへ移管する



## 通期業績予想：コア営業利益増減要因

### 成長シナリオ

国内No. 1 の地位をより強固なものとし、北米・アジア等、海外成長市場での更なる事業拡大・事業密度の向上を図る。



Ortus Stage 2 数値目標 760億円達成に向けて  
国内外での事業拡大と構造改革推進による収益性改善に取り組む

\*2019年3月期より「サーモス他事業」セグメントに計上されていたサーモス事業以外の他事業を「国内ガス事業」セグメントへ移管する

2019年3月期 通期業績予想

国内ガス事業

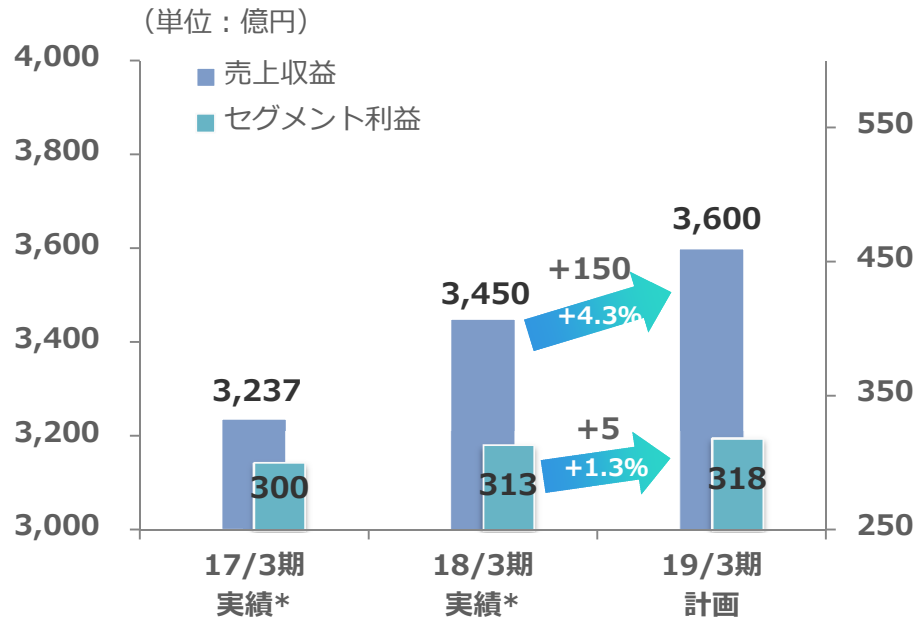


Ortus Stage 2

# 国内ガス事業

## 外部 環境認識

- 鉄鋼・化学・輸送機器・建機など国内製造業の稼働は概ね良好、ゆるやかな成長を期待したい
- 半導体産業は好調さを持続する見込みであるが、一部の製品分野の減速懸念がある。
- 原油価格の上昇により、コスト上昇の見通し



\*2019年3月期より「サーモス他事業」セグメントに計上されていたサーモス事業以外の他事業を「国内ガス事業」セグメントへ移管。上記グラフでは、比較基準を揃えるために、当該移管分を組み換えて表示。

■移管額 2017年3月期実績 売上収益 23億円、コア営業利益 6億円  
2018年3月期実績 売上収益 26億円、コア営業利益 6億円

### 今期計画達成に向けた取り組み

- 産業ガス
  - ・グループシナジー (Total TNSC) 効果による顧客基盤拡充 (バルク、ハードグッズ、ガス関連機器での収益拡大)
  - ・炭酸ガス事業の拡充 (価格改定推進、水島工場活用)
  - ・JFEサンソセンター倉敷工場の通年寄与によるオンサイトでの収益拡大
  - ・メディカル成長分野 (在宅・呼吸器・バイオ・SI) の拡大
- エレクトロニクス
  - ・既存顧客 (液晶・半導体) での需要増を確実に獲得
- エネルギー
  - ・燃料転換需要 (オイル → LPG) の獲得
  - ・M&Aによる民生用商権の拡大

2019年3月期 通期業績予想

米国ガス事業

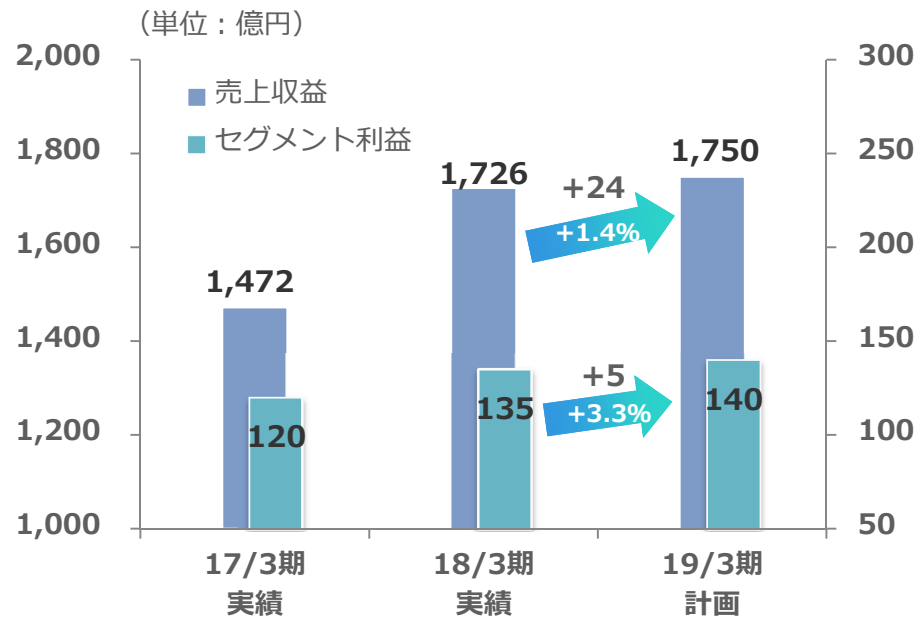


Ortus Stage 2

# 米国ガス事業

## 外部 環境認識

- 全般的に製造業での生産拡大が進む見通し（税制改正・労働市場改善）
- インフラ投資推進が期待できる
- 電子商取引の拡大により事業機会増加
- 想定為替レートは105円/ドルとし、対前期比で円高想定



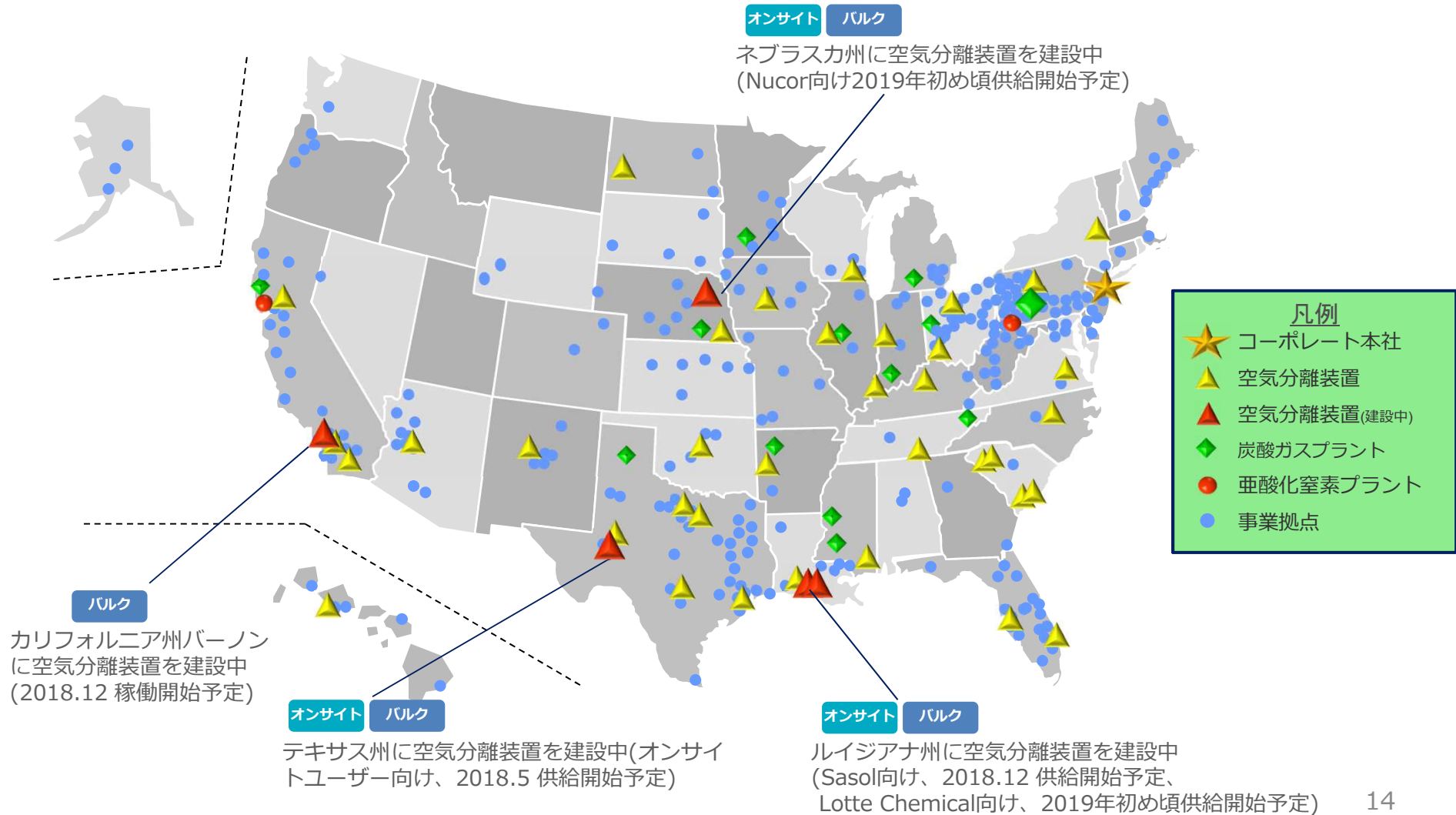
### 今期計画達成に向けた取り組み

- 産業ガス
  - ・ 新規オンサイトの順次稼働開始による増収増益、併産される競争力の高いバルク製品拡販
  - ・ 炭酸ガス新工場（ペンシルベニア州）の有効活用（新規拡販・物流費削減）による収益拡大
  - ・ 経済成長による需要増（バルク・ハードグッズ・パッケージガス）の確実な取り込み
- エレクトロニクス
  - ・ 戦略顧客への営業力強化により電子材料ガスを拡販
  - ・ 品質強化・安定供給推進による既存顧客への深耕

● 想定される為替影響額：売上収益 ▲89億円、コア営業利益 ▲7億円

# 米国ガス事業：新規オンサイト稼働開始

- ルイジアナ州2件、テキサス州1件、ネブラスカ州1件のオンサイトを確実に立上げるとともに、全米の産業ガス生産ネットワークを活かし、更なるオンサイト案件獲得を目指す



2019年3月期 通期業績予想

アジア・オセアニアガス  
事業

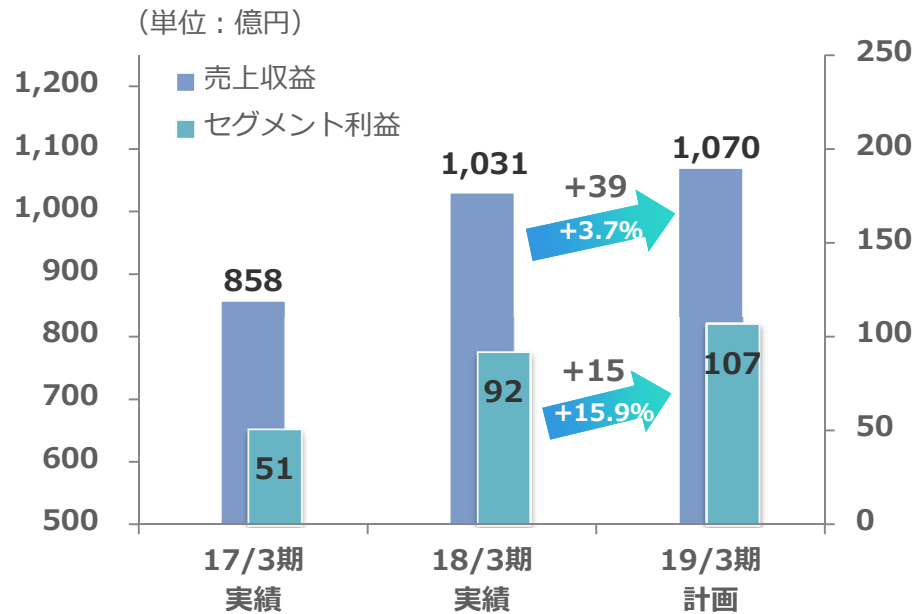
Ortus Stage 2

The logo for Ortus Stage 2 features a central globe showing the Americas, surrounded by a circular graphic composed of two overlapping rings, one light blue and one teal. The text 'Ortus Stage 2' is positioned to the right of the globe, with 'Ortus' in white on a teal background and 'Stage 2' in white on a light blue background. The entire logo is set against a light blue and teal gradient background that curves upwards from the bottom left.

# アジア・オセアニアガス事業

## 外部 環境認識

- 東アジア（中国、台湾、韓国）：半導体メーカー各社が設備増強
- 東南アジア：鉄鋼・自動車部品・電子部品など全般的に生産活動は好調
- 豪州：インフラ・食品・医療・Oil & Gas など主要産業は堅調



## 今期計画達成に向けた取り組み

- 産業ガス
  - ・フィリピン：電子部品向けを中心に収益拡大
  - ・ベトナム：北部新プラント稼働開始による販売拡大
  - ・シンガポール：ハードグッズ拡販（販路拡大・海外展開）
  - ・豪州：Nationwideを対象とした需要の獲得
  - ・インド：プラント安定稼働による液製品拡販、ヘリウム拡販
- エレクトロニクス
  - ・戦略顧客へのグループ統一戦略（需要・品質・コスト）の推進
  - ・期待される需要増（NAND/Logic）の確実な取込み
  - ・設備増強効果（韓国/中国）による更なる拡販の追及



# アジア・オセアニアガス事業：豪州事業会社再編による事業拡大

2018年4月に豪州の2事業会社を再編し、新生「Supagas Pty Limited」が誕生



新生 Supagas



- 事業概要
  - ・売上収益：210億円
  - ・コア営業利益：34億円（2018年3月期 実績）
  - ・豪州でのシェア：約10%（当社推定）
  - ・取扱商材：プロパンガス・関連器具、セパレートガス、炭酸ガス、ヘリウム
- 事業再編の狙い
  - ・ Nationwideで展開する販売店・物流業者での需要獲得
  - ・ 商材補完の推進（LPガス関連器具・炭酸・ヘリウム）
  - ・ コーポレート機能の合理化

## 液化炭酸ガス生産工場の新設

- 2018年11月 稼働開始（予定）
- ニューサウスウェールズ州ナウラ地区に液化炭酸ガス生産工場を新設
- シドニー、ブリスベンにドライアイス製造設備を設置
- 需要拡大が期待できる食品・飲料向けに拡販

豪州全土の製造・販売網を活かし、更なる収益拡大を目指す

# THERMOS

2019年3月期 通期業績予想

サーモス事業

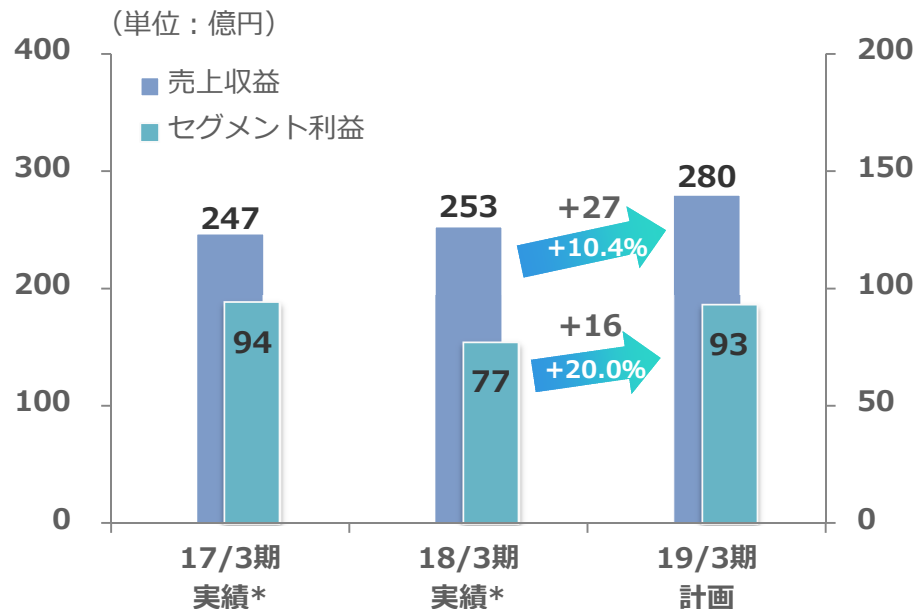


Ortus Stage 2

## サーモス事業

### 外部 環境認識

- 国内での魔法びん需要は堅調でありインバウンド需要も底堅い
- 米国での需要は堅調、欧州では業界再編の影響が残る
- 東アジア・東南アジアでは需要伸張が期待できる



\*2019年3月期より「サーモス他事業」セグメントに計上されていたサーモス事業以外の他事業を「国内ガス事業」セグメントへ移管。上記グラフでは、比較基準を揃えるために、当該移管分を組み換えて表示。

■移管額 2017年3月期実績 売上収益 23億円、コア営業利益 6億円  
2018年3月期実績 売上収益 26億円、コア営業利益 6億円

### 今期計画達成に向けた取り組み

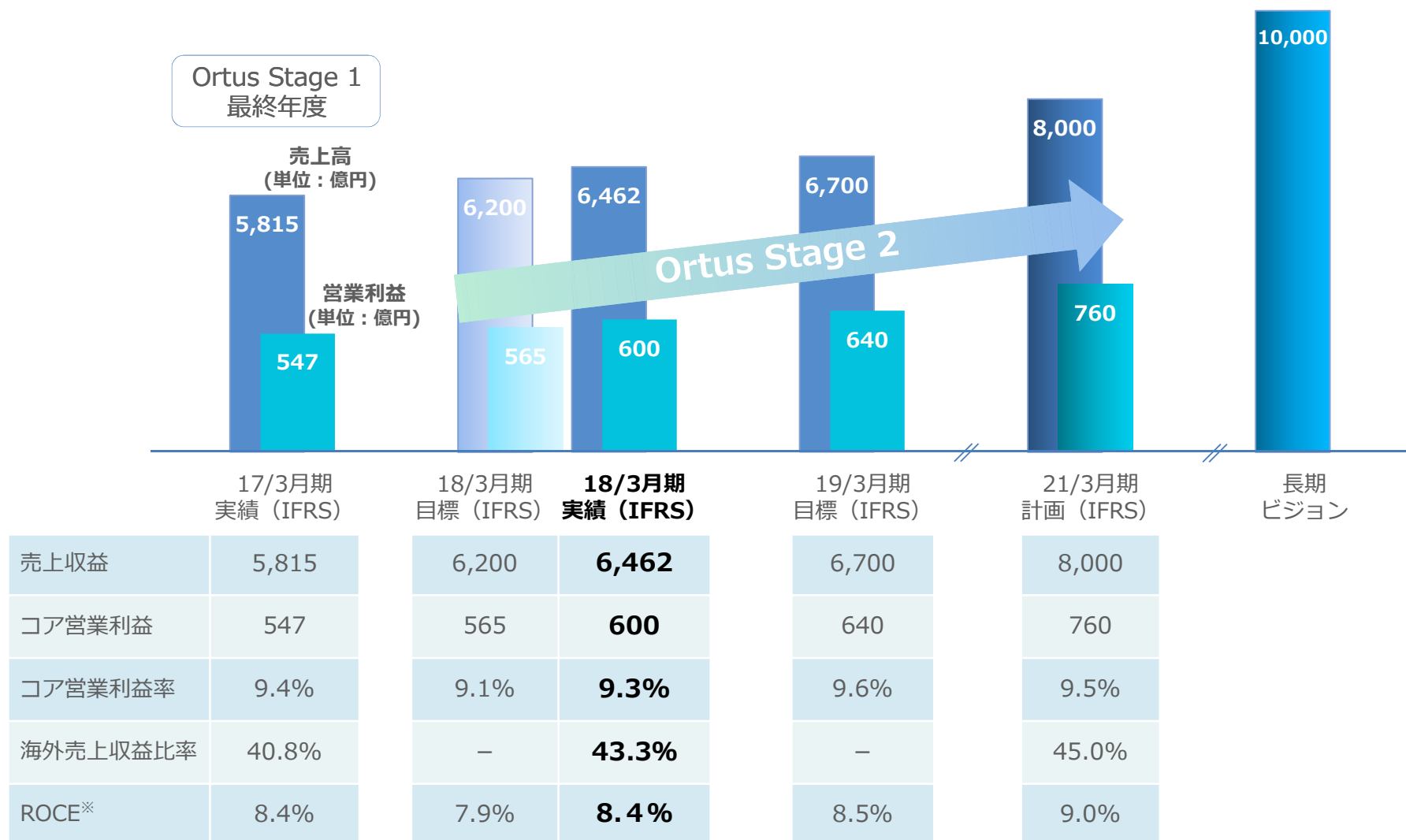
- 国内
  - ・新製品投入（ケータイマグ）、商品ラインナップの拡充（Kitchenware）による収益拡大
- 海外
  - ・韓国：商品カテゴリー拡充、販路拡大による収益拡大
  - ・北米：在庫調整は前期で終了、今期は事業好転
  - ・欧州：alfi社事業再構築による収益改善（サーモス製品拡販、マーケティング強化、コスト低減）
- 生産体制
  - ・フィリピン、マレーシア、中国の生産工場の安定稼動により販売機会損失の解消、欧州への供給強化

2019年3月期 通期業績予想

Ortus Stage 2 進捗状況



# Ortus Stage 2 進捗状況



※ ROCE = コア営業利益 / (有利子負債残高 + 親会社の所有者に帰属する持分)

※ コア営業利益とは営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目※）を除いて算出した数値を示す。

※ 非経常項目とは、構造改革費用（事業縮小・撤退、特別退職金）、災害や重大な事故による損失、その他（遊休資産の処理など）が該当する。

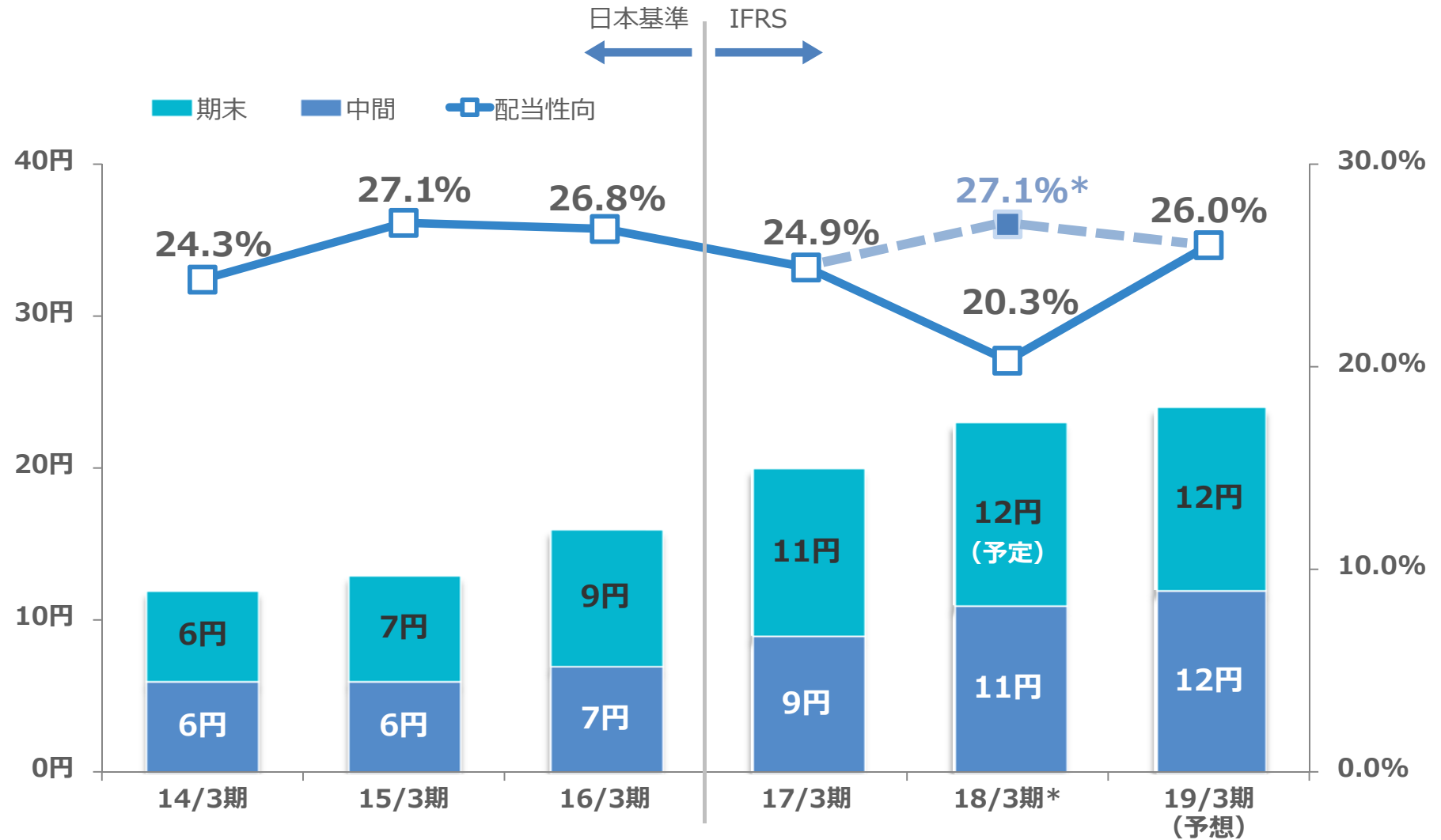
# 株主還元

A graphic element in the bottom right corner. It features a stylized globe of the Earth centered within a circular ring. The ring is divided into two segments: a larger blue segment on the left and a smaller green segment on the right. The entire graphic is set against a light blue, curved background that resembles a rising sun or a horizon line.

Ortus Stage 2

# 株主還元

安定的な配当を維持しつつ、業績に連動した配当政策を実施



\*2018年3月期では、米国での税制改革法における連邦法人税率の引下げにより、法人所得税が大幅に減少しました。この影響を除いた場合、配当性向は「27.1%」となります。

ご清聴ありがとうございました。





## 注意事項

---

- 本資料は、証券取引上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本説明会および本資料には、将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しが記述されております。これらは現時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断・想定したものであり、実際の業績はさまざまなリスクや不確実性（経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度などがございますが、これらに限りません）を含んでおります。
- このため、現時点での見込みとは異なる可能性がございますことをご注意いただき、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますよう、お願い致します。